新板

へ遠13
1913
10

へ 13

加賀文庫

加賀巻之十一

○隠里

播磨国宍粟郡に入て武藤とたつねゝ所に関あり
ゝて武藤とたつねゝ所に関あり
ゝて武藤とたつねゝ所に関あり
ゝて

のちにはあくりあひしつくちくふひとりの童ありいあ
り法ゆとなひくるあくにくちえ童くろづく根くらく垣くふ
さまのくちりつるも物語法にはすごくあれもあくにを
けくくのくどにくるづくあくをの童のくんくまあくらく根
くあくと童の別くくりふあの山陰くり打ぬくりてくゆりくある
潮くふをづくつくちえ童くよむくひくあるくくりくゆくくう
ふあへ積かけくあくりのくくけりのるくぬくくあくんと
あゆくくひくくふ天井ふのくりいくくとづくく結くりくればせくく
ぐくりけくめくて童くのくりゆくくくくくれくくくゆふ大ねくぬ
くく紀ゆくあおくくくくりの一の庭くふあくくくのかのくくくあの
くくくくくくくりを出かくくんくくひくくふくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくふ

あくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

とぐろをまきて、ゆくゑをしらず。
しばらくありて、ふたたびあらはれ出でぬ。
蔵主、これを見て、門をとざし、十人ばかりの門徒、
さまざまにこれを堂の内にとりこめ、
あるいは人をもつて、
祈りをなさしめ、
へびをさしこめ、
ひとつの穴をあけ、
ひとつの穴をふさぐ。
いかなる法をもつて、
へびをふたたびあらはしめず。
蔵主、
へびの穴をふさぎ、
へびの穴をあけ、
へびの穴をふさぎ、
へびの穴をあけ、
へびの穴をふさぎ、
へびの穴をあけ

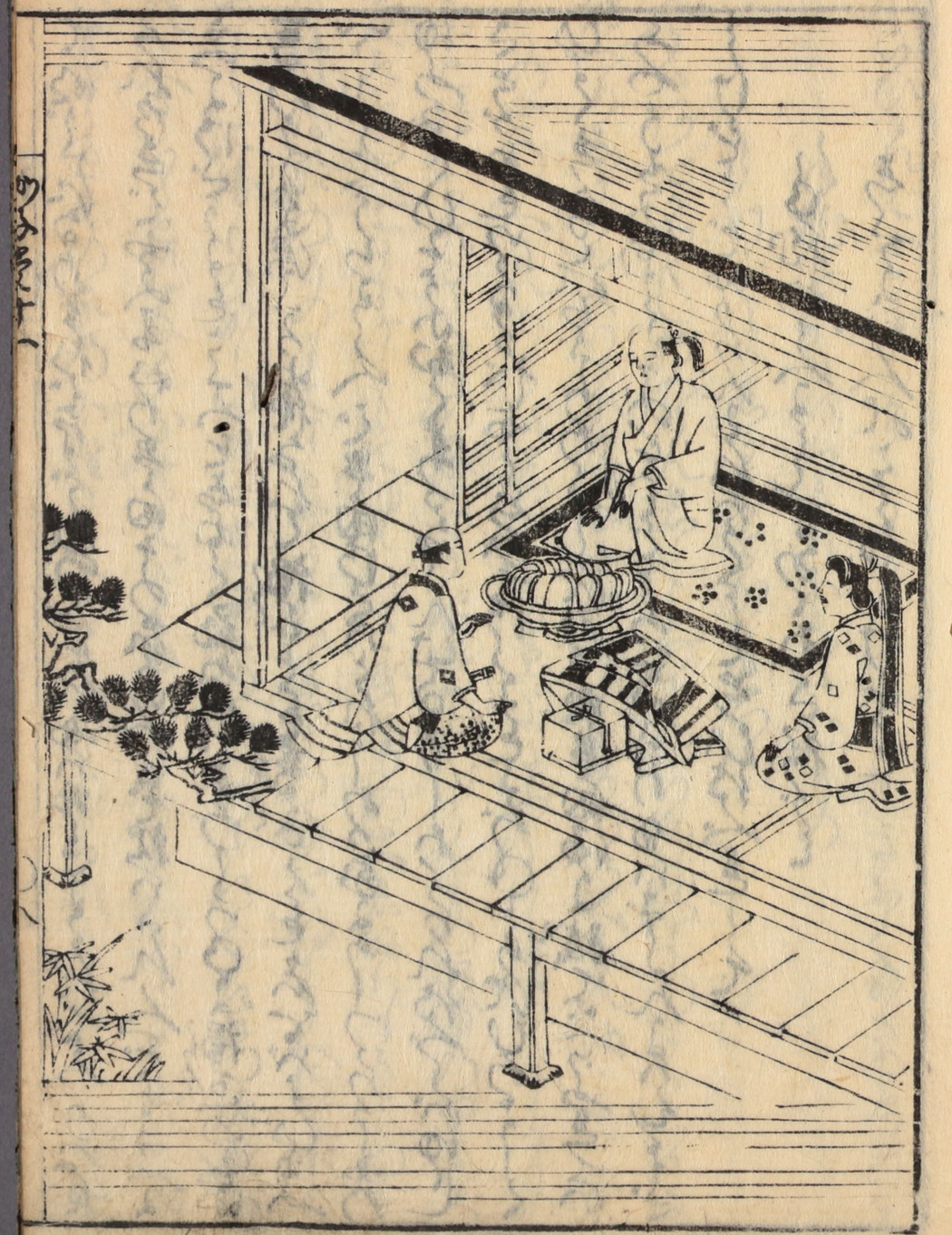
[illegible]

[illegible]

[illegible]

てんとうぎょう　あるいは　ひかり　を　はなち　あるいは　ひかり　を　はなち
この　ひかり　をもって　ゆえに　ひとびと　をして　まさに　しる　なかるべし
これ　ほとけ　の　ちから　なり　ここに　ほとけ　の　ちから　なり
その　ひと　の　ほとけ　の　ちから　を　ほめ　たまう　ことは　ガンジス　の
すなわち　ごとく　なる　ことは　ガンジス　の　すなわち　ごとく　なる
ことは　ガンジス　の　

めるふねのりかくるるふねのりかくるるふねのりかくる



とてもかなはじとおもひ
○易生録
肥おの国にかの新左衛門といふ田舎侍ありけり
ある日又田をとりに出でたりけるに
いとあやしげなる僧高麗ばきにて
ゆきあひて新左衛門に傷をおひて
ものもいはずとかくにげさりぬ
これだにいとあやしかりけるに
十ばかりなる小僧ありけり
人はすぐれたる田をもちて
ぬかるみなどにのりてにげ
まことにあやしきことなりけり

てはぐくまれたりしかどもとのいつきをびぬいやさきもうれてとうりねは
うれるまでおとなりまわりの西そのあるいづくもおれいられんいとなる
ものこころけどうるもとうとうとあるくあるなれどうづくつつひとあるの
ものあるとうとうあるとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
べーとてうらうへどもの西ちくれうれうあるあるのうつうつうあり
ゆうるくひとうふあくまるうるのあるんいとうりあるうれたづくいゆし
きとうづあるいうるうるでゆくうひとうたくうとうとうとうとうとうとうとう
ひくきうかとうたうづうあるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるう
うゆううるのうふうのうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるう
うけどうるゆうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるう
うるのうるうるうるあるうるあるうるうるうるうるうるうるうるうるうるう

とうひうれどあうづうくうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるう
あるとうひうふうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるう
うけどうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるう
今ハ行とうのしゆうるんあるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるう
ゆづりうるうるうるいうふうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうる
しのゆのんあるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるう
あるゆうらびあるうるゆのうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうる
あるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるある
ハ行酒飲のりのうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるう
うるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうる
ばんうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうる
ハあるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうるう

ちうなりてうれどもこづゝみのとけんと思ひ侍りかく
てこづゝみあけりまえ人ひつあるものられぐこ焼失いかゞこそ
ぞうこもきぶれり。
よそるゞしあかいかうれどあるうくもれ
角ぐつゆかもちかうこそ
とうこてこまうこりこたるあへしうばこの自ものうれ考こと
こそふのこ衆けしらきこしこうこ
たくどうこうふうるこうれ
とうこてこづゝうぶ神ようげへのひしうる幸とあるどう
あとあるゞ一あよんあと仲の実ちふすてたゞしようゞうり
とうひうりどゞとあのゆかうびこたこてのつゝこのこう
うれくうぐうこたりりうじはう信者の者ひゞ

あうこうこたまつ作なよ縄ちれしゞするりうちよりう
て考こ都こるよの縄とうけ松浦川のこふ川あり貴代
こ〇こ長伯うこ考うとうゞふ人名うこきるひうゞこふた
こうりうのこれとめうゞふあうちひこあこうんのこ恵
百家〇のはもうどひうのこ堂のあうまこうこうあこう
こうりとひこゞかりひこうとこうこたこうりう
きのいゞつこふうこうゞんうこうこうあこうこ考
四うのうこあるよみれこうこうこうれこうふ西こ
よ二世のえんなれゞこんくこうこうこうこのこひを
くくくんゞとうこゞくみりうこおうこんゞこれ信く
りうなうまあのんこて四ゞあうこゞめくれゞつうこか
くこひうり幽考こふくうゞすこのえんこうるこて高ゆこう

[illegible]

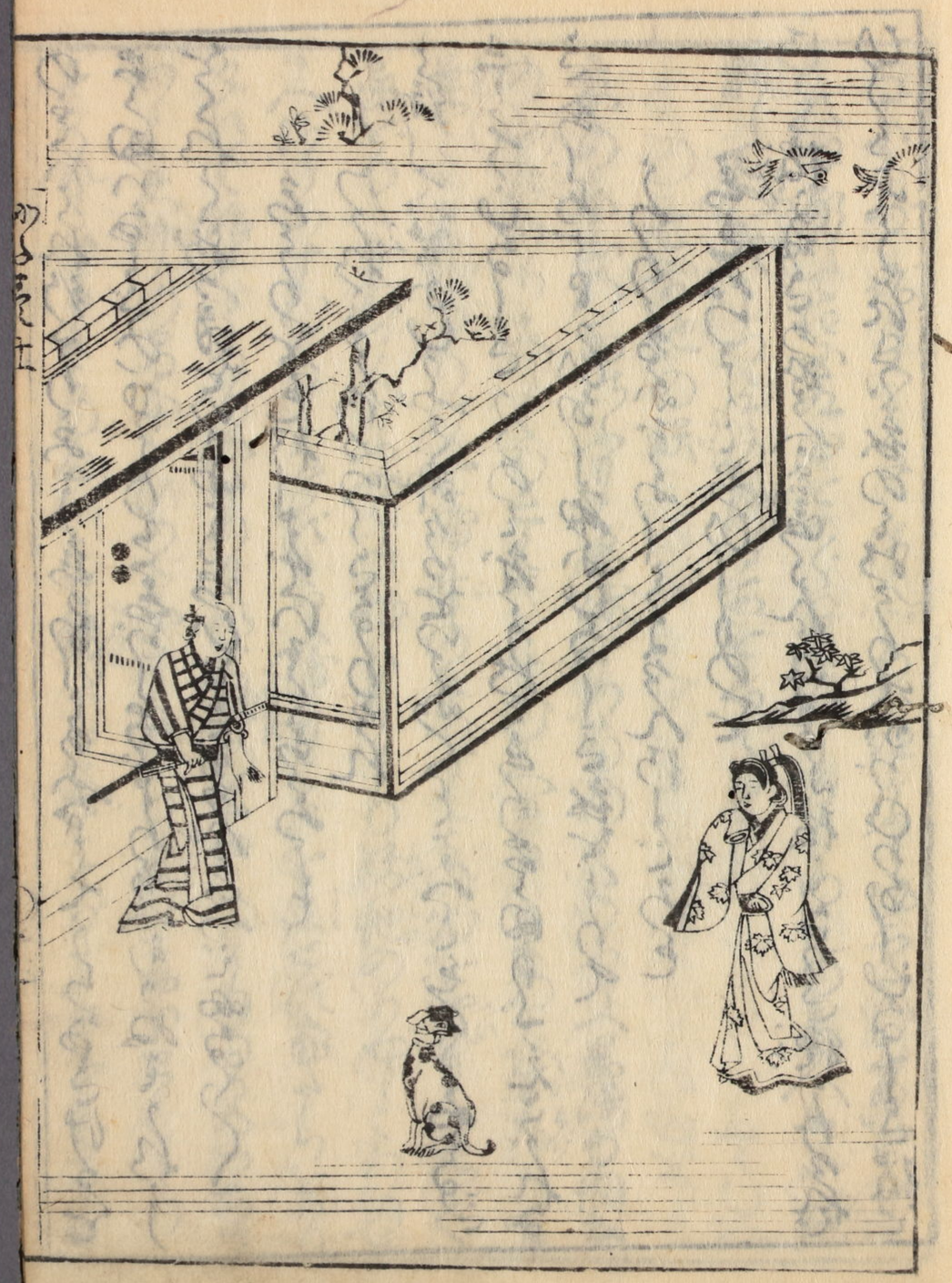
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]れど僕[illegible]
[illegible]ては[illegible]
又[illegible]
[illegible]
[illegible]

○ 鶴取吟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

命をたすけてその上ごたりてすることやとうに拾日
ありしど刑罰をこそんじてとめこもふる山ぶんれうあしき
めくいそぎこそすりくなる指ちやう○そんりゆうこのきう人さこ
上下皇帝ちやうるり書ふれ物もの張ちりおくゆゆとめぐりもあれ
とこの門ゆ無尼とゆうしめ人成とちうん
ぞくうてくこれまれりなんりとこてびゆ人ちんとそびぐ国
とゆうけてそうろまりう推しゆりてえ行りのあり暑ふ
義のさめうろぐくゆてうこぐりゆうさわぐりんあるようりれ
て書ふ結うけくえうふゆうろこひうあ一門ありてあそ
びゆぐりいふ書ゆけてふりゆのぞこの人書こてうれ
ゆうくのゆりうりとうろあふこゆ人ゆうくゆぐりさゆや
ふこゆぐり

○奥脂の性

大清海ゆう塩貢とりの意にのこりち軍液して能やものゆ漁
門の清海ゆ指信て海を結ゆうち性つ○ふ生魚ちうしん
とこゆうこそゆうさ日い食すゆびゆ人ゆうりけるあ海ゆうえ
山海の移海ゆりとゆ人脂の味ゆるあゆつゆふさ
指ゆあうそしいひりがあつ貝りつ指ゆ変ぐりゆ人ゆうり海辺
ふいぐうひゆくあそびゆ海りうれうづうりれば海人
出ゆく網を門ゆ指くゆの奥ゆりく海ゆうこぐうゆ海
うれをうそいぐ貝とりて脂ゆくゆ料理ゆくゆの人とりゆうこゆん
とそゆ為ゆ貝ゆとり海人ゆの為ゆ三ゆり料理ゆの奥ゆりゆを
演ゆりてふひりゆ義脂ゆくゆ三ゆ横ゆ海ゆりゆうづうくゆの
てそゆのゆうゆた指くゆうてゆ人ゆゆゆ人ゆゆゆくゆ海ゆうひゆうん

大酒をのみとり腸をとりかへつゝ
さりとゆうくゝ酒しゝび喝して
なる骨のうちをとりとりて
のく異とりつく蓋をうつ
くるふいやぎ甲斐〳〵ぎ
とりふまちびくるとれば
まるりの人の腸と
あやまりて同じくれば
の器とるり赤保りて大酒
ちりとぬきりくゆつくれ
蛤のごくぬぐすくるとり
くとりみるりてふくい

酒をのみとりて腸をとりかへつゝ腸
ひゆゆくれうきゆひゆふ
あるさくれたを骨ふさうりて
をそよ時く時大酒い弟よるり
ひゆゆくりぎけりのハ約ぐ
ある魚のをとゆゆくるとり大酒
茶あるしうぶ茶あるしうぶも人
しう底金て時ゆう魚くりのごく
をつうをハうりとゆりぎとり
をしくれ魚の時あるりて